

# ブドー免砧についての考察

赤羽紀雄

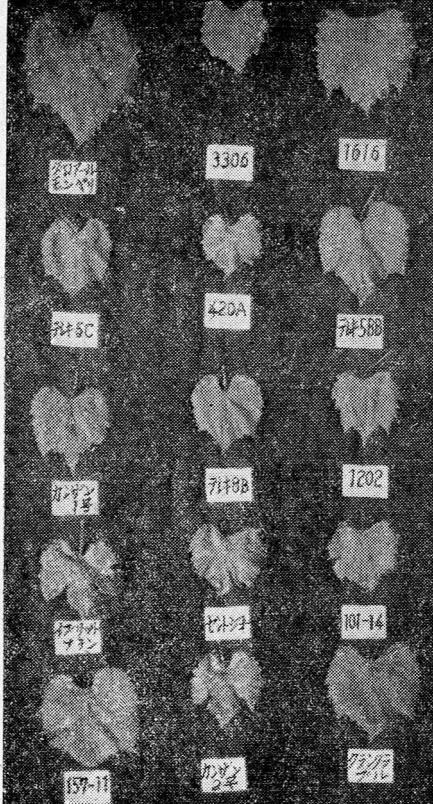
北海道では昭和の初期頃からブドー免砧が盛に使用されていたと聞いているが、その後一時衰退して自根苗が専ら増殖されてきた。近時、再び免砧について騒がれるようになつて来たのを見ても、この変遷は勿論、根を害するフィロキセラ虫発生の盛衰と一致しているようである。併し戦後急激に接木苗の必要性が認められて来たのは單にフィロキセラ虫の激増に対処するばかりでなく樹木に対する種々の生理的影響が考えられるようになつたからであると思う。

特に北海道においては免砧としての特性を現わすためには熟期を早めること、及び耐寒性を強めることの効果が伴わなければ

真の免砧利用の価値がないと思う。この点内地府県の場合と若干趣を異にするといふよう。以下ブドー免砧について考察してみたい。

## 一 砧木の品種にはどんなものがあるか

今日まで使用されている砧木は殆ど全部が仏國で育成されたもので有名品種としてわが国で利用されているものを大別するとリパリア、ルペストリス、ソロニス及びその雜種、リパリア×ルペストリス。ルペストリス×ベニフエラ。ベランデリ×リパリア等であるが、この中、実際に利用価値の多いものはリパリア×ルペストリス系の品種、即ち三三〇九、三三〇六、一〇一の一



ブドー免砧品種の葉型

## 第一表 砧木の土壤適応性

砧木品種	適応する土壤
一六一六、三三〇六	低湿地
一六一四、イブリット	表土の深い適湿地
三三〇九、テレキ八	肥沃地
B、セントジョージ	土層深い砂礫、乾燥地
四二〇A	土層浅い砂礫、乾燥地
○九一の一四、三三〇九、テレキ八B、イブリットフラン	適湿壤土又は砂壤土
三三〇六、イブリットフラン	土層の深い粘質壤土
四二〇A	各種乾燥瘠薄土
一六一六	塩分のある土壤

四である。最近有望視されて特に目立つて増殖されつつあるものはベランデリ×リパリア系のテレキ八B、五BB、五C、四二〇A等である。これらの系統はベランデリの乾燥、瘠薄土に強い性質とリパリア系統の発根性、熟期促進、品質向上、結実性のよい特徴を具備しているから今後、特に期待し得る砧木である。しかし各方面的試験結果によると必ずから砧木品種によつて土壤の適応性が變つて來るので、これを次に示すと第一表の通りである。

いずれの砧木を使用するかは土壤によることは勿論であるが栽培目的によって選択すべきであろう。例えば栽植密度が狭い垣根仕立、あるいは株作りのような場合は樹木の矮化させた方が都合がよいので、かうな時には一応矮化性砧木の使用が考えられる。しかし一般に今日のように粗植大木性が奨められている時は奨化性乃至は準奨化性砧木を利用する方がよいことになる。いずれの砧木にしても穗に及ぼす影響には一長一短がある。

例えば奨化性砧木は樹の寿命を延長させ結果年齢に入つてからの収量が多いが、結果年齢に入るのが遅ればかりでなく若木時代は往々にして着房が少なく着色熟期が遅れる傾向がある。一方矮化性砧木に接された穗は結果年齢期に入るのが早く着色良好にして品質が向上するが、樹木の伸長が遅く寿命の短い欠点がある。従つていずれの砧木にするかは自園の土壤とうまみ合せて經營にマッチするようになればならない。敢ていうならば他の性状も勘案して準奨化性砧木の三三〇九、三三〇六、テレキ八B、五BB、五C、四二〇Aなどが無難であるうと考える。降雨が少なくかつ垣根仕立が大部分である欧米では一般に矮化性砧木を利用しているが、降雨の多いかつ棚仕立の大木型にしているわが国では準奨化仕立が大部分である。

砧木には奨化性砧と矮化性砧があり前者には一二〇二、イブリットフラン、ガンゼン一号がこれに属しグロアール、一六一六、ソロニス等は後者に属す。三三〇九、三三〇六、テレキ八B、五BB、五C、四二〇Aは大体準奨化性砧で両者の中間である。

砧木品種によつて穂木にどのように影響するか

砧木には奨化性砧と矮化性砧があり前者には一二〇二、イブリットフラン、ガンゼン一号がこれに属しグロアール、一六一六、ソロニス等は後者に属す。三三〇九、三三〇六、テレキ八B、五BB、五C、四二〇Aは大体準奨化性砧で両者の中間である。

第二表 砧木が穂に及ぼす影響 (一)

砧木品種	代表系統	穂に及ぼす影響
リパリア 各品種	等	重要な影響
ベランデリー ルペストリス	グロアールモンペリ	早熟多産
リパリア × ルペストリス	セントジョージ等	晚熟多産
ブイニフェラ 各品種	四二〇A、テレキ八	品質低下
グロアール セントジョージ等	B、五C等	品質向上

第二表 砧木が穂に及ぼす影響

(二) (大隅氏)

砧木品種	接木	活着	接木	活着	成熱	色沢	耐病	花振
グロアール	極易	易	接木	極易	早	色沢	枯病	花振
セントジョージ	易	易	接木	易	晚	良	多産	やや早熟
グロアーライピリットフラン	易	易	接木	易	やや早	良	やや早熟	やや難
一〇一の一四	易	易	接木	易	中	中	やや早熟	やや難
三四エコール	易	易	接木	易	中	中	やや早熟	やや難
やや易	易	接木	易	易	中	中	やや早熟	やや難
やや難	易	接木	易	易	中	中	やや早熟	やや難
?	強?	接木	強?	弱	少	少	?	?
少	少	接木	多	少	少	少	?	?
少	多	接木	多	少	少	少	?	?
少	多	接木	少	少	少	少	?	?
A	二	接木	少	少	少	少	?	?

主体である場合には砧木が及ぼす果粒品質の影響の点ではそし神経質になる必要はない。寧ろ問題とすべきことは時期の早晚と収量の多少及び寿命の长短などである。この点について従来の試験成績を総合してみると第二表(一)である。

更にその他の影響について従来の成績をみると、その影響の点ではそし神経質になる必要はない。寧ろ問題とすべきことは時期の早晚と収量の多少及び寿命の长短などである。この点について従来の試験成績を総合してみると第二表(一)である。

あげれば第二表(二)の通りであるが、この成績は大隅氏が岡山県で行った調査であり栽植距離が狭くかつ砧木品種によつては最適の土壤条件にないものあつたろうから今後

栽培距離を拡大して土壤管理を十分行つた場合には成熱、色沢、花振などに多少の相違は当然出てくるものと考えるが一応の目安はつけられることは事実である。

砧木の穂木に及ぼす影響として特に北海道の場合を考えてみると前述したように秋の低温が来る前つまり初霜前に果粒が完熟していなければならぬ。それにはまず穂木の熟期を早める砧木が望ましい。特にナイヤガラのようになつたりする木のないように十月上旬に収穫するものは年によつてまたは場所によつては未熟のまで終ることがあるから今後は遅くとも九月一杯で完熟するような

通りである。

三 砧勝ち砧負けは問題になるか

接木された部分が明瞭に境界をなして砧木が穂木にくらべて特に太くなつたり、あるいは細くなつたりすることを砧勝ちまたは砧負けといふが、このことは穂木に及ぼす影響についてはまだ的確な証明はない。

しかし結論を先にいえば砧と穂に多少の勝ち負けはあるても穂に致命的な障害はない。

第三表 砧木が穂木に及ぼす耐寒性 (粘質壤土)

砧木品種	耐寒性	砧木	品種
カメリス	一〇一ノ一四、一五七ノ	同	中
デラウェア	五C、三三〇九	同	同
ナイヤガラ	四二〇A	五C、グロアール	セントジョージ
デラウェア	五C、三三〇九	五B B、一〇一ノ	セントジョージ
ナイヤガラ	四二〇A	五B B、グロアール	セントジョージ

砧木があれば産地は更に北進出来ると言える。更に砧木の影響として望まれることは冬期凍害から免れるような強耐寒性である。このことに關する成績は今の所、殆ど見当らない。砧木をして耐寒性を強くさせることは肥培管理が主体であるが、若し砧木によつて秋伸びを抑制

砧と穂が平行しているもの	ナイヤガラ	カメリス	デラウェア
砧が勝つていいるもの	テレキ八B	セントジョージ	イブリットフラン
砧が負けていいもの	グロアール	三三〇九、イブリットフラン	イブリットフラン
グランクラブル	四二〇A	一六一六	
三三〇九			
二二〇二			
ガンザン一号			
ントジョン			
ノーワン			
一〇一ノ一四			
セ五			
五C、三三〇九			